「問い」が生まれる授業のポイント（体育・保健体育）

準備

体育・保健体育という教科は児童生徒にとって「やってみたい」「うまくなりたい」といった欲求が生まれやすく、「上手になるためには？」「技ができるようになるためには？」「チームが勝つためには？」といった課題に向き合うことで、「問い」が生まれやすい特性をもった教科といえます。その特性を生かすためにも以下の準備が非常に大事です。

〇準備（4つのポイント）
- **教材の工夫（児童生徒が取り組みたくなるもので実態にあったものであるか）**
- **学習カードの工夫（簡潔かつ児童生徒の学びが見とれるものとなっているか）**
- **掲示物等の工夫（「問い」を解決するためのヒントが示されているか）**
- **場の設定の工夫（どの児童生徒の課題にも対応できる多様な場が設定されているか）**

導入

あいさつ（心の準備）

〇チャイムと同時に授業開始
- 始めのあいさつをきちんとする　・児童生徒の健康観察をする

準備運動（体の準備）

〇児童生徒が楽しく体を動かすことが出来るようBGM等による工夫
- 学校全体で共通の準備運動（運動会等でも使用）

基礎感覚運動（主運動につながる類似運動）

〇主運動を行う上で身に付けておきたい基礎感覚を身に付けるための運動
- ボール運動等では、基本的なボール操作にゲーム性を盛り込んだドリルゲーム
- 器械運動等においては類似運動のコースを作って楽しく（BGM等）

めあての確認（めあての明確化）

〇本時のめあてと活動の確認※必ず１時間に３つのめあてをたてる必要はない
- **めあて達成に向けた「問い」が生まれる**

（全体のめあて）運動のもつ特性に応じた課題
（チームのめあて）ゲーム等において小集団の課題
（個人のめあて）学習活動を通して個の課題

展開

活動１【器械運動系：基本技の習得】【ボール運動系：タスクゲーム】
活動２【器械運動系：発展技の習得】【ボール運動系：メインゲーム】

※タスクゲーム・・・メインゲームで必要となる技術・戦術を焦点化したゲーム

〇活動の留意点（課題解決に向けた活動や交流で「問い」が生まれる）
- 個・小集団の課題に応じた多様な場の設定（スモールステップ）
- 学び合い場面の設定（よい伝え方・アドバイスの視点の共有を）
- 体育・保健体育特有の伝え合い（言葉や体を使って伝え合う／言語活動の充実）
- 教師の積極的な賞賛（児童生徒の伸びを見とる力を）
- 課題解決へ向けた助言（本時のねらいにそった助言を）
- 児童の示範による学びの共有（課題解決へのヒントを）
- ＩＣＴ機器の活用（視覚による気づきを促し、学び合いを活性化）

※単元計画によって、活動１を単元前半で活動２を後半で行う場合もある。

終末

まとめ

〇めあてと正対したまとめの実施（本時における学びの確認・共有）

振り返り

〇まとめを踏まえた個人内評価の実施（学習カードの活用）
- 振り返りを発表（言語化）させることによる個々の学びを全体で共有
- **教師の適切な問い返し**により学習内容が深まり、**新たな「問い」が生まれる**

体育・保健体育の授業づくりで大切なこと

教材化の工夫と多様な場の設定

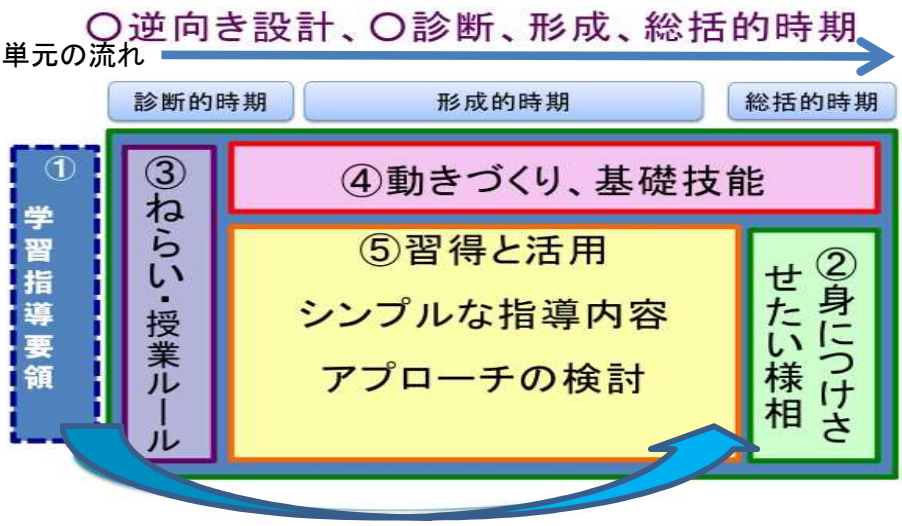
体育・保健体育科において、**授業づくりで最も大切なのが教材化と場の設定です。**既成のボール運動（バスケットボール、サッカー等）をそのまま教材としていないか、器械運動等で技能に応じた多様な場の設定がなされているか等です。単元始めは、どの児童生徒も興味をもって取り組むかも知れませんが、そのうち技能面に優れた一部の子だけが活躍し、一方、体を動かす場やチャンスがない児童生徒が増える授業となっている光景を目にすることがあります。

教師が授業づくりの基本と考えなければならないことは、**どの児童生徒も各自の持っている技能に応じ、活躍する場所が約束された教材を提示することや多様な場で活動できる保証をしてあげること**です。体育・保健体育科の授業の場合は、それができているかできていないかがすべてといっても過言ではありません。

身に付けさせたい力を明確にした単元構想

単元全体を見通した授業計画を持たずに授業に臨むと、児童生徒も教師もその場しのぎの授業（学習活動）となってしまい「活動あって学び無し」の授業となってしまうことになります。大変ではありますが、**身に付けさせたい力(単元終わりの児童の姿)を明確にした単元構想を練る**ことが、児童生徒にとっても教師にとっても楽しい体育・保健体育の授業や学び・育ちの実感につながっていきます。

【単元構想イメージ】　出典：桐蔭横浜大学　佐藤豊教授



①学習指導要領の指導内容から
②実態に応じ、単元で身に付けさせたい力(単元の終わりの児童の姿)を明確にする
③単元のねらいオリエンテーションの内容を決める
④毎時の前半でどのような基礎感覚運動（ドリルゲーム）をするか考える
⑤毎時の指導内容と学習過程を検討する

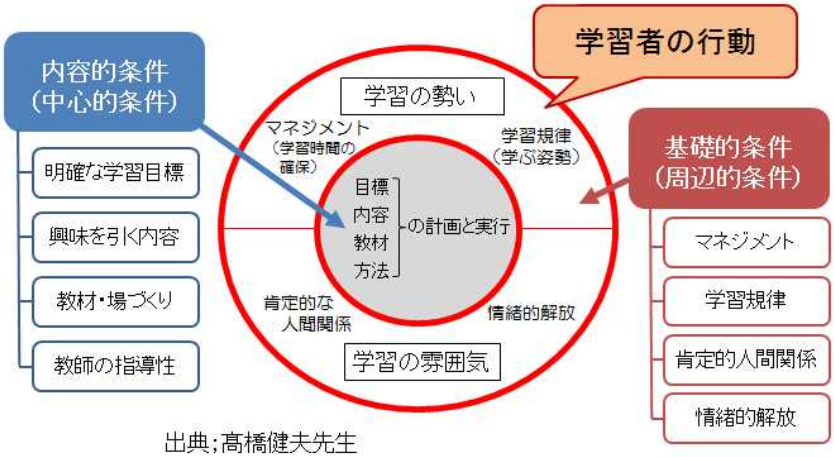
体育授業と学級経営

皆さん、「体育・保健体育の授業を観察すれば、その先生の学級経営がわかる。」と耳にしたことはありませんか。

そのようにいわれている理由が右図「よい体育授業の二重構造」の基礎的条件に示されています。「学習規律（学ぶ姿勢）」「肯定的人間関係」「情緒的解放」まさに学級経営に大切なことがらですね。

体育の授業力向上は学級経営にもつながるのですね。

よい体育授業の二重構造



出典；高橋健夫先生